

平成28年度 石川県教育工学研究大会  
日程・発表タイトル・アブストラクト一覧

本年度も石川県教育工学研究大会を開催する運びとなりました。今年は、金沢大学OBでもある東北学院大学・稲垣 忠先生を講師にお招きし、「アクティブ・ラーニングを実現する授業設計」をテーマにワークショップをしていただきます。1年間の研究の成果を交流し、今後の教育工学研究の発展につながる会となりますよう、万障お繰り合わせの上ご参加ください。

日時：3月5日（日）9：30～12：00（9：00受付開始）

場所：金沢大学人間社会学域学校教育学類

大会テーマ「アクティブ・ラーニングを実現する授業設計」

日 程

■午前の部 研究発表（分科会1・2）■

前半 9：30～10：30

休憩・企業周遊タイム 10：30～11：00

後半 11：00～12：10

■午後の部 講演・ワークショップ■

13：20～16：00

講師・東北学院大学 稲垣 忠先生

アクティブ・ラーニングを実現する授業設計について  
ワークショップ形式で考えます。

・当日参加も可能です ・資料代1,000円（会員、発表者は無料です）

発表時間15分・質疑5分・移動1分の予定です

\*\*\*\*\*研究発表 アブストラクト\*\*\*\*\*

分科会1

①習熟度の異なる児童に対する数のまとまりをつかむ力をつけるための手立ての考察

荒木 弥生子（金沢市立中央小学校芳齋分校）

特別支援学級に在籍する児童は、その特性から課題に対して意欲を持続させることやつきたい力の定着が難しい。また、自閉症・情緒障害学級に在籍する児童は、個人間差だけでなく個人内差が大きく、7名の学習集団の中でも扱う単元によっては習熟の差が開いてしまうことがある。特に算数科においては、領域によってはどのように単元や授業を組み立てるかが大きな課題となってくる。

そこで、算数科の数領域では7名を習熟度別の小集団に分けた上で、数をまとまりとしてとらえさせるための手立てはどうあるべきか考えた。

## ②ICT教材の工夫による意欲と学習効果の変容 ～子どもが学習しやすい授業づくりに向けて～

土田 友信（金沢大学大学院教職実践研究科・金沢市立鳴和中学校）

小池田 満、加藤 隆弘（金沢大学）

本研究は英語科においてICT教材を活用することで、学習が苦手な子どもや発達障害傾向の子どものみならず健常児にとっても、学習しやすい授業づくりを行う。教科書本文・文法事項・単語の内容をICT教材で理解することによって参加意欲と学習効果の変容を探る研究である。これからの英語教育へのささやかな提案でありギフトである。

## ③学びを活かし、主体的・協働的に課題を解決するみずほっ子の育成

～豊かな人間関係を基盤とした教育活動を通して～

畑中 祥一（羽咋市立瑞穂小学校）

今年度、本校は文部科学省、石川県教育委員会、羽咋市教育委員会より人権教育推進校としての指定を受けた。そこで、児童の実態や昨年度の学校研究の成果と課題、さらに人権教育の視点も踏まえ、「人権尊重の視点に立った学校・学級づくり、授業づくりを組織的・計画的に推進することで、豊かな人間関係が教育活動全般の基盤として形成されるであろう。そして、受容的・共感的な学級風土により、学び合い活動がより活性化し、主体的・協働的に課題を解決するみずほっ子が育成されるであろう。」という仮説を立て、研究を進めた

## ④道徳授業において児童が思考を深める言語活動に関する一考察～書く活動の分析を中心として～

松井 由紀（金沢市立伏見台小学校）

道徳の「教科化」は、「考え、議論する道徳」へと質的転換を図るものとされる。この質的転換を、主体的に道徳性を養うという道徳教育の特質へ立ち返ることと捉え、「児童が思考する姿」を想定し、その姿を見取る評価と指導方法を検討する。

## ⑤思考をつなげるアイテム活用 1年算数科の授業を通して

石尾 衣里奈（金沢立泉野小学校）

本校では、「自分で考える子-主体的・協働的な学びを目指して-」を主題として研究を行っている。今回、操作活動ができる数図ブロックと書き込みができるおけいこボードのアイテムが主体的・協働的な学びをする一助になるのではないかと考え研究を行った。研究は、1年生算数科「ひきざん」の単元を通して、アイテムの活用が児童の思考を活発にすることや相手意識をもって説明をすることに有効的だと明らかになった。

## ⑥タブレット端末を活用する教師の教授行動の分析と評価（3）

福田 晃（金沢市立十一屋小学校）・村井 万寿夫（金沢星稜大学）

第3学年理科においてタブレット端末を活用する授業を計画・実施した。その際に、福田・村井(2015)が考案した自己リフレクションの手法を活用し、授業の改善点の整理を行った。結果、【共通の見解の確認】、【児童にとって必要な教師の介入の場の設定】、【2回目のスケッチのあり方の検討】という3つの改善点を見出すことができた。さらに、自己リフレクションの手法に一部改変を加えても同様の成果が得られることが示唆された。

## 分科会 2

### ①算数科における思考力を育む授業設計 ～思考を促す言葉に着目した授業実践～

田口 優（金沢市立杜の里小学校）

思考力を育むために、思考を促す言葉に着目し、その言葉を繰り返し用いる授業実践に取り組んだ。本稿は、思考を促す言葉に着目し、その言葉を児童が使うことのできるように設計した授業が児童の算数科における思考力育成にどのような効果を与えるのか、その授業設計の有用性を明らかにするものである。思考を促す言葉を使った授業に取り組んだことで、多くの児童が比較して考えたり、より具体的に考えたりすることができるようになった。

### ②学習のまとめとしての成果物を効果的に位置づけた単元設計（1）

～「特色ある地域と人々の暮らし」の実践から～

岡本 光司（金沢市立小坂小学校）

第4学年社会科「特色ある地域と人々の暮らし」において、単元計画の最後に、一般観光客に石川の魅力を発信するパンフレットを作成するという学習活動を設定した。この単元計画によって、児童の学習意欲、学習してきた内容を表現する力にどのような変化があったかを明らかにするものである。明確な相手意識を持って、自分たちの郷土の魅力を発信したいという児童の意欲が高まった一方、学習の習熟度が児童の能力に依存し、個人差が生じてしまうこと、社会科単独の単元計画では実現が難しいなどの課題が残った。

### ③学級内 SNS を活用したメディア・リテラシーを育む単元設計と評価

山口 眞希（金沢立大徳小学校・放送大学大学院情報学プログラム）

本研究の目的は、児童のメディア・リテラシーを育むために、SNS の特性を学習できるような単元を設計し、評価をすることである。小学校4年生を対象に、学級内に限定された教育用 SNS を3ヶ月間体験しながら学習した。メディア・リテラシー評価尺度調査の平均点による事前・事後調査の比較から、本単元は SNS に関するメディア・リテラシーの育成に有用であることが示唆された。

### ④タブレット端末のプレゼン機能を用いたクイズ作り

小松 正和（金沢市立中央小学校芳齋分校）

特別支援学級に在籍する児童は、その特性から繰り返し学習していることには、自信を持ち、意欲的に取り組むことができる。しかし新しい学習には抵抗感を示し、なかなか取り組めないことも多い。また、国語科の言語に関する学習では、語彙の広がりや意味理解を深めることや学習したことを生活場面において活用することが難しい。そこで、国語科の言語事項を指導する単元を構成するにあたり、物の特徴をヒントとしたクイズ作りをゴールと設定した。その際、タブレット端末を児童の実態に応じて個別化することで、見通しを持ちながら適切な言葉を自ら考え、主体的に取り組む姿が見られた。

### ⑤英語コミュニケーションを促す ICT の利活用

～チャット機能を活用したグループディスカッションの実践～

福岡 輝樹（石川県立寺井高等学校） 清水 和久（金沢星稜大学）

ICT の普及とともに、チャットによるコミュニケーションを行う機会は今後増加していくことが予想される。国際化社会における様々な場面で、英語を用いた文字による、即時性の高いコミュニケーションの機会も増えるだろう。文字のみによるコミュニケーションの性質に触れることも含め、生徒の発言を引き出し、Fluency から Accuracy の発展へ繋げた